

第二九五回俳都松山俳句ポスト

第二九五回開函

「紅日」主宰 川内 雄二 選

特選三句

いわし船一直線に帰港せり

愛媛県松山市 椋名 清一

七変化いずれの色もまことかな

東京都杉並区 水原 良

何ごととも無き風吹きて終戦日

東京都江戸川区 山縣 文

入選二十句

(市外)

旅人に夏うぐいすのこゑやさし

神奈川県藤沢市 高瀬 俊次

天守閣昇りつめての涼風よ

栃木県那須塩原市 利府 弥生

蛸の声に暮れゆく子規の里

兵庫県神戸市 平尾 美智男

手のひらに螢止まりて光りだす

愛媛県伊予市 福井 恒博

子供より大人が多い地蔵盆

滋賀県彦根市 嶋沢 一江

声唄れて祭り囃子の宵も更け

愛知県刈谷市 大門 正俊

声がぶつかる水がぶつかるプール開き

愛媛県新居浜市 薦田 千代子

蝉の死の羽より始まれるけはひ

大阪府豊中市 松尾 悠汰

原爆忌纏うシヨールの影黒し

愛知県岡崎市 小須田 正子

冷房に油の匂ふ旧電車

東京都杉並区 寺澤 始

五月闇すだれより漏る道後の灯

群馬県前橋市 関根 秀臣

黒光り天守の床の梅雨じめり

群馬県藤岡市 荻野 栄子

すすき野に風に吹かれて我ひとり

愛媛県西予市 荻山 都

(市内)

子規偲ぶ城より高い秋の空

愛媛県松山市 門屋 定

若葉から若葉へ降りてゆくしづく

愛媛県松山市 平成 十年

徒へんろ足湯に杖もそつとつけ

愛媛県松山市 白石 恵一

空の果て青を重ねて夏の山

愛媛県松山市 森田 幸代

朝風の瀬戸キラキラと渡船着く

愛媛県松山市 横田 智都恵

(十五歳以下)

雪とけてやさしい風がふいてきた

愛媛県伊予郡松前町 徳野 壮太郎

すいきんくつみみからすすしきかんじ
たよ

広島県東広島市 沖田 絢菜

(伊予灘ものがたり賞)

梅雨明けて伊予灘のたび茜いろ

愛媛県松山市 飯尾 静代

投句総数	一、九〇三句
市外	一、六〇六句
市内	二九七句
投句者総数	一、二二六人
市外	一、〇五二人
市内	一七四人

開函日

令和元年八月三十一日